

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570108555		
法人名	医療法人 久幸会		
事業所名	グループホーム なでしこの家		
所在地	秋田市金足追分字海老穴223		
自己評価作成日	平成28年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院ということから医療連携がスムーズに行えている。法人グループ内には老健、特養などの施設もあり、次の段階の支援も柔軟に対応出来ている。また法人内のそれぞれの担当部署との連携により入居から日常の生活まで一貫して支援している。「生きがい」「安心」「支えあい」を理念に掲げ、心身の健康に配慮しながら日々の生活の中で入居者様ひとりひとりが笑顔で過ごす事が出来る様に支援している。また、ご家族様との時間、関係を大切に、普段の面会はもとより誕生会や敬老会など記念日を一緒にお祝いして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、一歩中に入ると明るく穏やかな空気に包まれている。母体が病院であること、法人グループ内に老健や特養などがあることから、医療的なケアを必要とする方も安心して過ごすことができる。職員は利用者も個々を取り巻く状況も常に変化しているということに敏感であり、その時々で大事なことを見逃さないよう気を配っている。一般的に言われていることも、一人ひとりの利用者には照らしてどうか、という個別性を大事にしたケアを展開しており、理念を具体的な実践に繋げている。また、2つの町内会に属し、地域と共に防災に関する地域課題に取り組んでいるほか、認知症の啓蒙活動では、事業所にて「認知症サポーター養成講座」を開催するなど地域貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度ごとに入居者様の状況をふまえ、職員間でケアの目標となる理念について意見を出し合い作成している。また、その理念のもと日々実践に向けて取り組んでいる。	利用者や利用者を囲む状況は、常に変化しており、理念も状況を踏まえたものであるべき、との考えにより、年度毎に話し合っ作成している。今年度の話し合いで作られた「生きがい・安心・支え合い」の理念は、一人ひとりにとっての生き甲斐、健康面も含めた安心、家族や地域の方々、そして職員も含めた支え合いを意識し、日々のケアの中に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する2つの町内会へ所属し、総会への出席や夏祭り、地域防災訓練などの地域行事にも参加している。	所属する2つの町内会は、高齢者世帯や一人暮らしが多く、防災への備えや協力体制の維持は、事業所のみならず地域課題として取り上げられ、取り組みが始まっているところである。事業所はそんな地域の中で、共に防災訓練に取り組んだり、ホームの持つ力を地域に還元すべく、サポーター養成講座を開催したり、地域のボランティアを受け入れている。また、地域の祭りに利用者も参加したり、参加できない利用者は絵灯籠を作成し作品で参加したりと工夫をしながら交流の機会を作り、徐々に関係性ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域向けのお便りの中で情報提供したり、運営推進会議についてお知らせしている。町内の中心となって活動されている班長さんを対象とした「認知症サポーター養成講座」を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段の活動状況や、その時々テーマについて報告を行うと共に地域からの情報提供を頂き、サービス向上の為活発な意見交換が行われている。	事業所内の活動の報告や、地域的な話題などが提供され様々な意見が出されている。防災対策については具体的な取り組みの方法が話し合われ、次第に形になっていく経過が確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との直接的な連絡は法人内の担当部署が行っているが、包括支援センターからは運営推進会議などを通し情報提供頂いている。また、秋田市認知症グループホーム連絡会において、市から現状報告などに来て頂く機会を得て、研修会として参加している。	法人内の担当相談員が、市町村との連絡を担っており、必要時には意見交換を行ったり、助言をもらっている。グループホーム連絡会の研修では、市職員が講師になるなど協力的である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外で開催される研修に参加することで理解を深め、基本的な考え方として身体拘束をしないことを職員全体が認識している。	事業所内では、身体拘束は行ってない。職員はグループホーム連絡会主催の研修会などに参加し、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員が研修会で学ぶ機会を持ち、虐待の内容や起こりうる状況などから、互いに注意しあい防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで勉強する機会をもち、様々な情報に目を向けるようにしている。必要に応じ関係各種と話し合い、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	生活相談員と共に、契約書をもとに疑問点や不安について十分に話し合い、納得、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、面会時などご意見、ご要望を伺う良い機会とし、話し易い環境作りに努めている。頂いたご意見は真摯に受け止め、職員間、関係各種と共有、話し合い、運営に反映させるようにしている。	意見箱に意見が入っていたことはないが、法人に対する意見を皆で自事業所の事として受け止め、運営に反映させている。日常のケアの中で利用者の意見を聴いたり、家族には面会の時や介護計画の策定の際電話をして意見を聴く機会を設けている。また、年に1回アンケート調査も行い、普段話しにくいことも吸い上げられるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも自由に意見を出し合える環境や、ミーティングで話し合ったりしている。	職員間で出た意見を率直に管理者に話すことができ、管理者は必要があれば所属長に伝えている。特に対応が求められる時には所属長から本部の方へ意見をあげていく体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の資格や特技が活かせるよう配慮したり、新年度にそれぞれ目標を掲げ、目標達成のためのアドバイスが受けられるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修課において様々な研修が企画されており、全員必須研修への参加や、法人外の研修にも積極的な参加が勧められている。また、普段の業務の中での学びも意識して取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム連絡会を通じて情報を入手している。また、市の連絡会では研修や情報交換会も定期的開催し積極的に参加している。また、相互訪問も行いサービスの質の向上の為に情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースを尊重し、さりげない声掛けや話し易い環境作りに努めている。また日常の会話を通し気持ちを聞き出し、不安や悩みを取り除く配慮や、安心を得るための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に十分な話し合いが持てるようにし、納得信頼の関係作りに努めている。また、普段から面会時の他にも電話などでもいつでも相談して頂けるような体制はできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の姿勢を持ち、個々の得意なことを発揮して頂く場面を提供し、教えて頂いたり、一緒に行ったりしている。共に楽しみ、笑える時間を大切にしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望や悩みも受け止めながら、本人を支えていく為の最善の方法が得られるように情報交換をしている。また、本人と一緒に記念日を祝うなどの機会を積極的に設けている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、親類、知人との交流や行きつけの美容院の利用などがいつでもできるように支援している。	家族の協力を得て、行きつけの美容院に出かけたり、親せきの集まりに参加したりと、馴染みの関係が途切れないように支援されている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な場面で馴染みの関係が築けるような支援に努め、共同生活でお互いを認め合い、支え合える関係作りを支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じていつでも気軽に相談していただけるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望をいつでも話せるような環境に配慮し、さりげなく尋ねたりしている。また、家族からの情報やそれまでの暮らし方などから本人にとって必要とされるケアの提供に努めている。	本人の状況に応じて、さりげなく思いや意向を引きだせるように関わっている。表出が困難な方でも生活歴や家族の話などを基に、本人にとって無理なく過ごせる方法を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、今までの生活の様子や人間関係、趣味や嗜好など、入居時や折にふれ本人や家族から情報を得ている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の状態を見極めたうえで、心身の変化やその日の新たな発見などについて情報を共有し、現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態、カンファレンスなどの情報をもとに担当者が中心となって計画作成者と共に作成している。日々の気付きや本人の思いを大切に、家族、関係職種との情報交換により要望を反映させた内容となっている。	毎月全利用者に対してカンファレンスを行い、全職員からの視点を持ち寄り、現状の把握を行っている。職員は1～2名を担当しており、担当者が気づかない面も皆で意見を出しあうことにより、本人理解が深まり、より本人本位の実際的なプランが策定されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践の経過や結果について個別に記録し、関わりの中での気づきを毎日の申し送りやミーティングで情報を共有し、統一したケアの実践に努めている。また月1回カンファレンスを行い介護計画に活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の文化施設や公園などを訪れたり、地域のボランティアの訪問による歌の会やお茶会などを開催し、暮らしの中の楽しみを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、今までにかかっていた医療機関や緊急時の搬送先について伺っている。その上で、希望を大切に利用の支援をしている。新たに法人内の受診を進める際は前もって了解を得るようにしている。	家族の希望により、かかりつけ医利用の支援をしているが、利用の経緯から法人内の受診を希望する方が多い。緊急時には厚生医療センターと連携し対応している。薬局とも連携が取れており、相談ができる体制である。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から法人内の担当看護師と連携をはかり、相談やアドバイスをもらっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院入院時には担当相談員や看護師を介して情報交換している。また、外部への入院時においても相談員や看護師と情報交換を行うなどしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にも話し合っているが、状況の変化に伴いその都度、家族、職員間で話し合ったり、生活相談員を介して、家族と医師との話し合いの場を設けるなどし、事業所の持つ特性を活かした支援をしている。	母体が医療機関であることから、入居に際して、重度化した場合には病院での対応となる旨を説明している。入居後もその時々状況によって、必要な話し合いを持ち、方針を共有している。利用者の殆どが、母体が病院であることを安心材料ととらえての入居希望であり、十分な理解が得られている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修に参加したり、緊急時対応マニュアルに添って行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の併施設設との合同避難訓練や個別の防災訓練を実施している。また、訓練マニュアルを作成し、誘導方法などについても明確にしている。また、地域の自主防災組織の立上げにより、地域での防災訓練にも参加している。	年2回の合同避難訓練と事業所独自の防災訓練を行っている。目標達成計画にもあげられていた地域の自主防災組織が立ち上がり、2つの町内会と具体的な協力体制の相談を開始している。水害に関しては現在マニュアルを作成中である。災害備蓄品なども備蓄の方法を見直すなどし、より実地的な備えをしている。事業所が2階建てであることから、地震の際には1階で、水害の際には2階で救助を待つよう対策を立てている。	念願の地域の自主防災組織が立ち上がったことにより、今後はそれが実効性のある組織に育つよう、地域との連携を密にし、地域の中での事業所の役割を確認し地域の方々と一緒に、防災に取り組むことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応時の姿勢など、ひとりひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮しながら接している。	全員に対して一律に丁寧な言葉を使うことがかえって尊厳を傷つけていた、という反省に立ち、一人ひとりの成育歴などを考慮し、その方に伝わる言葉、反応を得られやすい声かけを行っている。また、それぞれの得意なこと、例えば絵が得意な方には職員の似顔絵を描いていただくなどで有能感を引き出し尊厳が保持できるよう支援している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも自分の思いを伝えることができる話しやすい環境作り心がけている。また、外出レク時の食事メニューや茶話会時の飲み物を選んで頂いたり、普段の会話の中でも自由に気持ちを表出できるような声掛けに配慮している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を尊重しながら自分のペースで過ごせるよう支援している。受診などの時はあらかじめ本人に伝え理解して頂いている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	毎日のお化粧を続けて頂いたり、馴染みの美容院の利用など、家にいたころのことを継続できるように支援している。また、一緒に準備することでおしゃれの会話を楽しんだり、本人の希望を伺う機会にもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意とすることを発揮して頂きながら一緒に作業をしたり、食卓を囲んでの会話を楽しみながら食事をしている。また、食事会などの機会を持ち好みの物をたずねたりしながら楽しみのある食事の提供に努めている。	主となる献立は中央で調理されてくるが、盛り付けや、配膳、後片付け、味噌汁作りなどを行ってもらい、できることを支援している。ある程度調理されたものを利用することにより利用者と向かい合う時間を確保し、食事の中の会話の中にも季節感を感じられるような話題を盛り込み、見当識にも働きかけながら楽しく食事できるよう配慮している。また、外食の機会もあり、それぞれの好みに合わせ行き先を選び、喜ばれている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し不足と思われる時は随時水分補給して頂いたり、体調により食事が十分に摂れない時は好みの物を提供するなどし、体調管理に努めている。また個々の状態に合わせた食事形態で食べ易い食事の提供に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けをし、口腔内の清潔を保つよう支援している。必要に応じて手助けしている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、さりげない声掛けでのトイレ誘導や、わかりやすいトイレの表示に努めている。また排泄に関して困っていることがあれば必要に応じて泌尿器科などの受診も支援している。	現在おむつを使っている方はいない。トイレにはわかり易い表示をし、できるだけ自分で行けるよう工夫している。尿便意のはっきりしない方には、排泄パターンの把握をし、さりげなく誘導している。頻尿など排泄で困っていることは、医療に繋いで相談するなど、排泄の自立に向けて支援している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、適度に体を動かす機会を作り一緒に行っている。便通を整えるような食材や飲み物の提供を心がけ、朝食時にはカスピ海ヨーグルトを勧めている。排便パターンの把握に努め医師より宿便時の対応についてあらかじめ指示を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を尊重し、健康状態を確認したうえで個別に対応している。入浴できない時は清拭や足浴などをして頂いている。	基本的には午後から、週2～3回の入浴であるが、本人の希望により、それ以外の時間にも対応している。体調や皮膚の状態なども考慮し、柔軟に支援している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えながらも、本人の習慣や希望を優先し、日中でも無理なく休めるようにしている。また夜間の気持ちの良い睡眠を促す為に日中の活動にも配慮している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容、目的、副作用などについて把握するように努めている。また確実に内服できるように個別に支援している。病状に変化がみられたときは速やかに医師に報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や過去の仕事、習慣を大切に、本人の得意とすることを活かし、役割を持つことで自信に繋げるような支援をしている。また、趣味などを楽しんで頂いたり、レクリエーションや外出などで気分転換を図るなどしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	近隣への散歩、家族と一緒に外出、外泊などの機会を得ている。またレクリエーションの一環として季節ごとに公園や文化施設を訪れたりしている。	日常的に事業所周辺の散歩に出かけているほか、法人内の車両部門に外出予定を連絡し、寒くないときには近隣の公園や、社会施設、外食に出かけたりしている。事業所内には外出した時の写真が貼られ、あちこちに出かけ楽しんでいる様子が垣間見られた。また、週に1回の法人のデイサービスへの外出は、生活リズム作りに役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に職員が管理している。買い物の依頼がある時は速やかに対応している。また買い物レクなどを通して希望の物を購入できるように支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけて頂ける環境作りや、手紙を書いたり、日頃から自分の思いを伝えることができる関係作りに努めている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や、自分たちで作った装飾を飾ったり気持ちの良い光や風が取り入れられるようにしている。消臭剤などを効果的に使用し不快な臭いの無いようにし、居心地の良い生活空間の提供に心がけている。	共用の空間は不快な刺激はなく、明るく穏やかな空間となっている。法人内の園芸部門からは季節の草花が届けられ、窓の外には隣家の木々を眺めることができ、季節感を味わうことができる。ホールには大きな窓があるが、季節ごとに眩しすぎないように、光の調節に工夫し、快適で気持ちよく過ごせるようになっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階にはリビングテーブル、ソファ、2階にもテーブルセットを配し、馴染みの場所、人との関わりを大切にしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人、家族と相談しながら、馴染みの家具や寝具、使い慣れた物などを置くことで安心して居心地良く過ごせる居室作りをお手伝いしている。	事業所で準備したベッドとタンスは木製で温かみのあるデザインとなっている。それ以外は自由になじみの物を持ち込んでいただき、それぞれの部屋に家族の写真や、自分の作品などが掲示され、その方らしさを感じられる。また、他の事業者から移ってきた方には家具の配置を前のところと同じくし、少しでも混乱の無いように配慮している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室はさりげない表示で混乱のないようにしている。また随所に設けられた手すり、車いすでも対応できるトイレや洗面所、2階へはエレベーターも設置されている。		